

ハワイ日本語学校教科書集成

【編集復刻版】
全10巻

●体裁——A4判（四面付方式）・上製・総約3、300頁（原本総約13、200頁）

●解説——高木（北山）眞理子 愛知学院大学文学部教授〈第10巻所収〉

●推薦——沖田行司・白水繁彦・バゼル山本登紀子・吉田亮

●原本提供——ハワイ大学マノア校図書館・鶴見大学図書館他

●定価——本体揃価格Ⅱ280、000円＋税

第1回配本（第1～3巻） 2011年11月 本体84、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7031-5

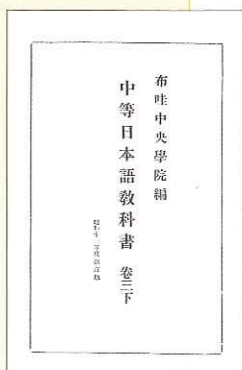
第2回配本（第4～6巻） 2012年6月 本体84、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7035-3

第3回配本（第7～10巻） 2012年11月 本体112、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7039-1

戦前期、ハワイの日本語学校で使われた教科書を収集し、教科書92冊と解説を付し復刻。



ハワイ日本語学校の教科書が語るもの

沖田 行司（同志社大学教授）

ハワイで日本人学校が創設された当初は、日本の文部省から文部省検定済の教科書や教育勅語の謄本の提供を受け、日本式教育を施すいわゆる「日本人学校」であった。しかし、第一次世界大戦を契機にアメリカへの同化政策が強く推進されるようになると、ハワイでも日本の天皇と国家に忠誠を尽くす教科書を採用していた日本人学校の教育に対して、外国語学校取締法を上程するなど、厳しい批判がおこった。これに対して、多くの日本人学校では日本語の教育を中心とする「日本語学校」へとその内容を変え、アメリカの市民権を持った日本人移民の子供に、アメリカの同化政策と矛盾しない教科書の自主編纂を目指した。外国語学校取締法に対しては、提訴の結果、アメリカ合衆国大審院において、合衆国憲法に規定された教育を受ける権利と矛盾するとして、一九二七年に違憲の判決がくだされた。

これ以降、ハワイにおける日本語学校は最大の活況を呈した。独自の日本語説本と修身教科書を編纂した。東西の文明を融合した新しい教育が模索され、日米の架け橋となる日系人の養成などが期待された。しかし、一九四一年二月七日（現地）の日米開戦を契機に日本語学校は閉校となった。

ハワイで編纂されたこれら日本語学校の教科書は、アメリカと日本という二つの国民教育を超えてゆく可能性を秘めていた。日本の教科書のグローバル化が叫ばれている今日、ハワイ日本語学校で用いられた教科書とその歴史から学ぶところは大きい。

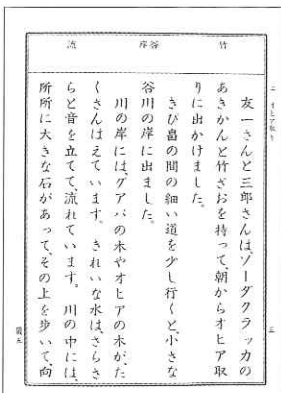
ネイション・ビルディングと教科書

白水 繁彦（駒澤大学教授）

ベネディクト・アンダーソンは、近代のネイション・ビルディング（国民形成の推進）を後押ししたものに出版資本主義があり、マスメディアは国家共同体を形成する駆動力のひとつだったと指摘したが、日本のネイション・ビルディングに決定的な役割を果たしたのは学校教育＝公教育である。それも文部省の統制のもと、全国統一の教科書＝国定教科書という印刷メディアを用いての教育である。

文部省の統計によれば、日本政府は明治末年には小学校児童の就学率九割以上という二〇世紀初頭、世界に類を見ない高率を達成している。筆者の調査によれば、実態は「お情け卒業」という学童も少なからずいたのだが、肝心なことは、同世代の子どものマジョリティが、全国同じ教科書で、国家が養成した教師によって一斉に教育された点である。こうして一気に進んだネイション・ビルディングの、いわば「成果」がハワイ移民を嚆矢とする明治・大正期の移民（正確には国際的「出稼ぎ」）であり、かれらの子どもたちを教育すべく海を渡った教師たちである。したがって親も教師も当然のごとく、日本の国定教科書を輸入して使用した。ここに、かれらが予期しない問題が胚胎していた。すなわちネイション・ビルディングに用いるということは子どもたちを「日本人」に仕立て上げる、ということである。それはハワイやアメリカの主流社会の人たちや、かれらと「協調路線」を取る人から見れば「不穏当」なことである。なぜなら、少なくともハワイで生まれた子どもたちの多くは「米国民」なのであるから。

結果的に、ハワイ日本人学校関係者の苦悩、苦闘、葛藤を経て新たな教科書が編まれることになるのだが、この度復刻される日本人学校の教科書は、こうした背景・経緯から見て、民族やエスニシティ、同化や文化変容に関心をもつ人びとにとって貴重な資料となる。



一次史料としての戦前期ハワイ日本語学校教科書

バゼル山本登紀子（ハワイ大学マノア校図書館司書）

「太平洋の楽園」ハワイの青い海と空、ダイナミックでありまた癒されるハワイの自然に訪問者は感激する。しかしハワイにはもう一つの驚きと魅力がある。ワイキキを一步出て日常生活を始め、地元を息づく「日本」を見た時、ハワイ育ちの米国人が日本の精神と文化を思い起こさせてくれた時、日本の慣習が、日系移民社会を超えたハワイ地元の文化となつて継承されているのを体験した時、欧州移民文化が基礎となつていた米本土生活が長かった私は震撼した。

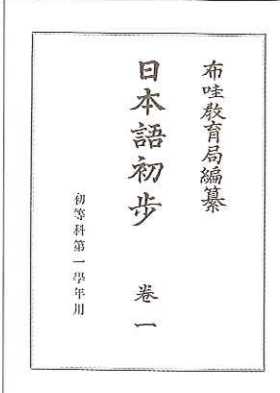
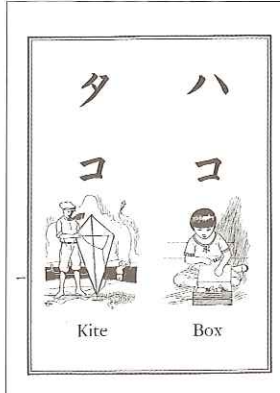
それはハワイ大学マノア校図書館に保存されている戦前期のハワイ日本語学校教科書を手に取った時も同じだった。多様な挿絵、「青いマンガ」の話から学ぶ教訓、日米偉人、学者、事業家物語、そして修身書、等々、二〇世紀初頭から戦後初期に布哇教育會、布哇中央學院、本派本願寺學務部、ホノルル教育會などが独自の信念で編纂し、子弟教育に使用した教科書が、当館には数百冊余り保存されている。日系移民の子供を米国人、それとも日本人として教育すべきかの議論が白熱し、排日運動がハワイに及び、外国語学校取締法が上程されるという時期に出版され、使われてきた教科書である。真珠湾攻撃後には、これらの多くが破棄された。今回不二出版のご協力で、使いこなされたハワイ戦前期の教科書が初めて甦る。多くの研究者に活用され、様々な分野の新たな発見に繋がることを心から願っている。貴重な資料となる。

移民史研究とハワイ日本語学校教科書

吉田 亮（同志社大学教授）

ハワイへの日本人移民の歴史は、元年者を嚆矢とし、一八八五年の「官約」移民より本格化する。当初、「出稼ぎ」を目的としていたが、二〇世紀初頭よりは「定住化」していく移民にとつての懸案の一つであり続けたのは、第二世代への教育問題であった。一八九〇年代に、日本人キリスト教牧師神田重英、奥村多喜衛らが設立した学校を端緒とする日本語学校の歴史は、刻々と変化する現地、日本人移民両社会の多様な利害が競合・衝突・調整を繰り返す場であり続けた。特に、ハワイでは、第一次大戦後に高揚したアメリカ化運動の結果、一九二〇年代初頭に現地公教育局が日本語学校を主要なターゲットとする外国語学校取締法を制定、それに対抗して日本人移民が違憲訴訟を起こし、二七年に勝訴するという画期的な経験を持つ地域であった。

今回出版の『ハワイ日本語学校教科書集成』は、多い時期で日系二世の約九割が学んでいたという日本語学校用に、一九一八年から四一年までに編纂出版された教科書の集成である。二世に教えるべき知徳の体系を代表する教科書には、ハワイの日系二世教育に関与した現地、日本人移民両社会の諸集団が二世に期待したもののエッセンスが凝縮されている。二三年間出版された、尋常科から高等科までの、五団体がそれぞれ編集した教科書が盛り込まれた集大成である。個別、日本語学校史や教育史だけでなく、移民・民族史の史料としても大いに活用が期待できるものである。

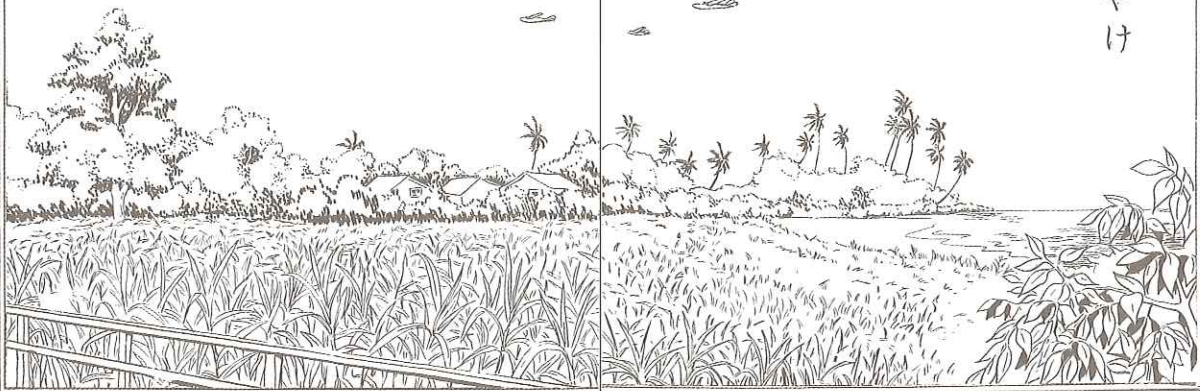


事

一
タヤけこやけ

タヤけこやけ、
お空は火事だ。
ひこうき一だい、
二だい三だい、
つづいてかえる。
タヤけこやけ。

タヤけこやけ、
お空は火事だ。
おどけマイナが
あわててかえる。
すゑめかえる。
タヤけこやけ。
タヤけこやけ、
お空は火事だ



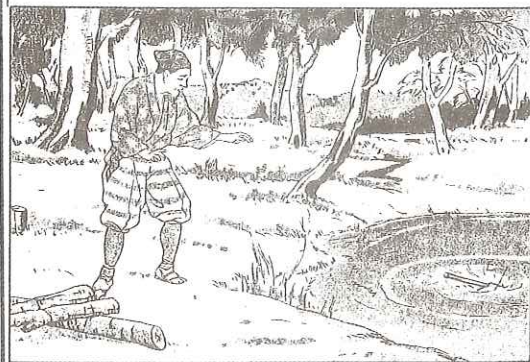
やしの木もやけた、
マンゴの木もやけた。
あしたは天気だ、
タヤけこやけ。

二
金のおの

木こりが池のそばの森で、木を切っていま
した。おのに力を入れてこんこんと切っ
ていました。

聲

あんまり力を入れすぎたので、おのが手が
らはなれて、とんで行
きました。「あつ」と思
う間に、おのはふかい池の中
へ、どぶんと落ちてしま
いました。
「あ、しまった。」
と、木こりは思わず大き
な声を出しました。そ



● 『ハワイ日本語学校教科書集成』 各巻収録内容一覧

収録巻	書名	編者	発行年
第1巻	日本語讀本 卷一	布哇教育會編	1935
	日本語讀本 卷一	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷二	布哇教育會編	1929
	日本語讀本 卷二	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷三	布哇教育會編	1931
	日本語讀本 卷三	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷四	布哇教育會編	1935
	日本語讀本 卷四	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷五	布哇教育會編	1937
	日本語讀本 卷五	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷六	布哇教育會編	1936
	日本語讀本 卷六	布哇教育會編	1938
第2巻	日本語讀本 卷七	布哇教育會編	1937
	日本語讀本 卷八	布哇教育會編	1939
	日本語讀本 卷八	布哇教育會編	1937
	日本語讀本 卷九	布哇教育會編	1940
	日本語讀本 卷十	布哇教育會編	1938
	日本語讀本 卷十一	布哇教育會編	1939
	日本語讀本 卷十二	布哇教育會編	1939
	日本語讀本 尋常科用 卷一	布哇教育會編	1925
	日本語讀本 尋常科用 卷三	布哇教育會編	1921
	日本語讀本 尋常科用 卷五	布哇教育會編	1923
	日本語讀本 中等科用 卷一	布哇教育會編	1940
	日本語讀本 中等科用 卷二	布哇教育會編	1940
第3巻	日本語讀本 中等科用 卷三	布哇教育會編	1941
	日本語讀本 中等科用 卷四	布哇教育會編	1940
	日本語讀本 高等科用 卷二	布哇教育會編	1918
	夏季讀本 卷一	ホノルル教育會編	1937
	夏季讀本 卷二	ホノルル教育會編	1937
	夏季讀本 卷三	ホノルル教育會編	1938
	夏季讀本 卷四	ホノルル教育會編	1938
	夏季讀本 卷五	ホノルル教育會編	1939
	夏季讀本 卷六	ホノルル教育會編	1940
	夏季讀本 中等科用	ホノルル教育會編	1941
	副日本語讀本 一	ホノルル教育會編	1930
	副日本語讀本 三	ホノルル教育會編	1930
第4巻	副日本語讀本 四	ホノルル教育會編	1930
	副日本語讀本 五	ホノルル教育會編	1930
	副日本語讀本 六	ホノルル教育會編	1930
	四訂中學修身書 卷二	本派本願寺學務部編	1939
	日本語讀本 卷二	本派本願寺學務部編	1928
	日本語讀本 卷三	本派本願寺學務部編	1928
	日本語讀本 卷五	本派本願寺學務部編	1928
	日本語讀本 卷六	本派本願寺學務部編	1928
	三訂中等日本語讀本 卷一	本派本願寺學務部編	1929
	三訂中等日本語讀本 卷二	本派本願寺學務部編	1929
	新編中等日本語讀本 卷三	本派本願寺學務部編	1938
	改訂中等日本語讀本 卷四	本派本願寺學務部編	1928
第5巻	三訂中等日本語讀本 卷四	本派本願寺學務部編	1929
	新編中等日本語讀本 卷四	本派本願寺學務部編	1938

収録巻	書名	編者	発行年
第6巻	佛教日曜學校讀本 中等科 卷一	本派本願寺學務部編	1931
	實力のつく日本語學習書 卷四	本派本願寺學務部編	1934
	實力のつく日本語學習書 卷五	本派本願寺學務部編	1934
	實力のつく日本語學習書 卷六	本派本願寺學務部編	1934
	新選中等修身教本 卷一	布哇中央學院編	1935
	新選中等修身教本 卷二	布哇中央學院編	1930
	新選中等修身教本 卷三	布哇中央學院編	1934
	新選中等修身教本 卷四	布哇中央學院編	1936
	中等日本語教科書 卷一上	布哇中央學院編	1930
	中等日本語教科書 卷一下	布哇中央學院編	1930
	中等日本語教科書 卷二上	布哇中央學院編	1936
	中等日本語教科書 卷二下	布哇中央學院編	1930
第7巻	中等日本語教科書 卷三上	布哇中央學院編	1936
	中等日本語教科書 卷三下	布哇中央學院編	1936
	中等日本語教科書 卷四上	布哇中央學院編	1930
	日本語讀本 卷一	布哇教育局編	1924
	日本語讀本 卷二	布哇教育局編	1924
	日本語讀本 卷三	布哇教育局編	1924
	日本語讀本 卷五	布哇教育局編	1924
	日本語讀本 卷六	布哇教育局編	1924
	日本語初步 卷一	布哇教育局編	1925
	日本語初步 卷二	布哇教育局編	1925
	修身書 卷一	布哇教育會編	1938
	修身書 卷二	布哇教育會編	1937
第8巻	修身書 卷三	布哇教育會編	1937
	修身書 卷四	布哇教育會編	1935
	修身書 卷五	布哇教育會編	1937
	修身書 卷六	布哇教育會編	1940
	修身書 教師用 卷一	布哇教育會編	1932
	修身書 教師用 卷二	布哇教育會編	1932
	修身書 教師用 卷三	布哇教育會編	1932
	修身書 教師用 卷四	布哇教育會編	1932
	修身書 教師用 卷五	布哇教育會編	1932
	修身書 教師用 卷六	布哇教育會編	1932
	修身書 中等科用 卷一	布哇教育會編	1940
	修身書 中等科用 卷二	布哇教育會編	1938
第9巻	修身書 中等科用 卷三	布哇教育會編	1940
	修身書 中等科用 卷四	布哇教育會編	1940
	修身書参考 中等科用 卷一	布哇教育會編	1933
	修身書参考 中等科用 卷二	布哇教育會編	1933
第10巻	修身書参考 中等科用 卷三	布哇教育會編	1934
	修身書参考 中等科用 卷四	布哇教育會編	1935



ハワイ日本語学校 教科書集成

〔編集復刻版〕
全10巻

●体裁——A4判（四面付方式）・上製・総約3、300頁
（原本総約13、200頁）

●解説——高木（北山）眞理子 愛知学院大学文学部教授（第10巻所収）

●推薦——沖田行司・白水繁彦・バゼル山本登紀子・吉田亮

●原本提供——ハワイ大学マノア校図書館・鶴見大学図書館他

●定価——本体揃価格280、000円＋税

第1回配本（第1～3巻） 2011年11月

本体84、000円＋税

ISBN 978-4-183501703-1

第2回配本（第4～6巻） 2012年6月

本体84、000円＋税

ISBN 978-4-183501703-3

第3回配本（第7～10巻） 2012年11月

本体112、000円＋税

ISBN 978-4-183501703-1

書籍教育出版
書身修
用郵政 一巻



修身書 巻一 教師用
一 今日から一年生（一）
二 生徒の生活と学習
三 生徒の生活と学習
四 生徒の生活と学習
五 生徒の生活と学習
六 生徒の生活と学習
七 生徒の生活と学習
八 生徒の生活と学習
九 生徒の生活と学習
十 生徒の生活と学習

●関連図書のご案内

日本人移民ハワイ上陸拒絶事件 領事報告を中心に
児玉正昭・著

●定価——本体2、500円＋税

●体裁——A5判・上製・192頁

一八九七年におきた日本人移民ハワイ上陸拒絶事件について、著者は「被拒絶上陸者口供書」（外務省外交史料館蔵）「布哇ニ於テ本邦移民ノ上陸拒絶一件第二巻」所収」という史料に着目。この史料を『日本外交文書』はじめ諸文献から収集した豊富なデータとつぎあわせ、検討することにより、事件の全容を考察、検証する。

仏教海外開教史資料集成 ハワイ編 全6巻

●定価——本体揃価格120、000円＋税

●体裁——A5判・上製・総3、642頁

●編・解題——中西直樹

●推薦——大村英昭・坂口満宏

本資料集成は、ハワイにおける膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

△収録資料抜粋△ 全25点

『布哇開教史』本派本願寺布哇開教事務所文書部編 一九一八年

『浄土宗開教要覧』《抄録》柴田玄鳳編 一九二九年

『布哇真言宗開教沿革』創立五十周年記念「加登田哲英著 一九六六年

『布哇曹洞宗寺院情勢概要』布哇曹洞宗教会編 一九四九年

『ハワイ日蓮宗八〇年のあゆみ』ハワイ日蓮宗別院編 一九八二年

日系アメリカ文学雑誌集成 全22巻・別冊1

●定価——本体揃価格396、000円＋税

（各巻18、000円＋税）

●体裁——A5判・B5判・上製・総11、420頁

●編集・解題——篠田左多江・山本岩夫

●推薦——阪田安雄・佐々木敏二・福田陸太郎

太平洋戦争中、アメリカにおける強制収容所内で発行された、日系人による文学雑誌（日本語）を、今日収集できるかぎり集め、解題を付して復刻。また、その後雑誌である戦後の日系文学雑誌も、あわせて復刻出版。「収獲」「若人」「怒涛」「鉄欄」「ハートマウンテン文芸」「ボストン文芸」「NY文芸」「南加文芸」の八種の雑誌を全二二巻に収録。

不二出版

〒113 0023 東京都文京区向丘一丁目二
TEL 03-3811-4433
FAX 03-3811-4464
振替 001601-94084